

提出意見とそれに対する市の考え方

案件名	矢板市地域公共交通網形成計画
-----	----------------

今回公表しました計画案に対する貴重なご意見ありがとうございました。
 お寄せいただいたご意見を十分検討した結果、それに対する市の考え方は、次のとおりです。
 なお、類似の意見については、内容ごとにまとめさせていただきました。

項目	意見の内容	意見に対する考え方
デマンド交通への抵抗感	デマンド交通はいちいち電話で依頼する必要がある、相当抵抗がある。それに比べて定時発着のバスであれば連絡をしなくても自分の意思で予定や計画ができるので抵抗がない。	デマンド交通は、事前の登録や電話予約に対する抵抗感があることは承知していますが、バス停まで遠い等の理由でこれまで利用できなかった方の外出を支援するため、デマンド交通を導入する予定です。予約の方法等については、利用者の意見を聞きながら、より便利な方法を検討します。
デマンド交通は予定が立たないの不安	デマンド交通は相乗り方式のため、予定した時刻に到着できないことが予想され、会議や友人との約束、通院の予定等が立たなくなるなど不安がある。	デマンド交通は相乗りのため到着時刻の指定ができないというデメリットがありますが、利用者の不安を解消するような運行のエリアや時間帯、本数等を検討します。
路線バスとデマンド交通併用型の提案	路線バスとデマンド交通の両者のメリットを生かし、路線バスは4路線の直線往復型とし、365日運行を希望する。デマンド交通は東西にエリア分けをして、路線バス区域外の運行としてはどうか。その他、車いす利用者への対応検討を希望する。	ご提案の内容については、次年度の詳細検討の一助とさせていただきます。可能な限り利用しやすい公共交通体系の構築を目指します。

<p>デマンド交通導入に反対</p>	<p>デマンド交通のメリットは十分評価できるが、利用者目線に立った場合、時間的ロスが大きく、結果利用しない、利用できないケースが多々発生するものと推測されるため、デマンド交通は受け入れがたい。</p>	<p>次年度の詳細検討で、運行形態やエリア、時間帯、車両等について検討し、デマンド交通のデメリットを可能な限り解消するよう努めます。</p>
<p>中央環状線の路線について</p>	<p>中央環状線は市街地内だけを巡回するのみにして、決まった発車時刻で待ち時間が少ない路線を希望する。</p>	<p>中央環状線は矢板駅周辺の病院や商業施設、公共施設等を巡回する路線バスを構築し、決まった発車時刻の設定等、わかりやすく利用しやすい路線を検討します。</p>
<p>路線バスの定時刻発車の提案</p>	<p>路線バスの発車時刻について、毎時〇分（例えば3時間毎であれば7:19、10:19、13:19など）と「〇分」が決まった時刻になっていると、高齢者には非常にわかりやすくなるので、検討してほしい。</p>	<p>本計画では、基本理念として「便利でわかりやすく、利用しやすい公共交通体系の構築」を掲げており、ご提案のような発車時刻設定については、中央環状線での導入を検討します。</p>
<p>現行路線バスの路線改善型の提案</p>	<p>定時定路線8路線（直線往復型）を365日運行するバスを提案する。バス停留所の車内アナウンスの実施や公共施設の経由、車いす利用者への対応検討を希望する。</p>	<p>ご提案の内容については、次年度の詳細検討の一助とさせていただきます。可能な限り利用しやすい公共交通体系の構築を目指します。</p>
<p>乗車券の種類について</p>	<p>乗り換えるたびに購入する片道乗車券を廃止して、1日乗り放題の1日乗車券のみが良いと思う。</p>	<p>1日乗車券のみであれば利用者にはわかりやすくなりますが、様々な利用者ニーズに対応する必要もあり、次年度に詳細を検討します。</p>

<p>バリアフリーや使いやすいバス停への要望</p>	<p>バス停に日陰や椅子、雨よけ等を設置したり、車いす利用者や歩行困難者、視覚・聴覚弱者への対応をしたり、高齢者や障がい者にやさしい公共交通を望む。</p>	<p>中央環状線のバス停は、病院や商業施設、公共施設の敷地内での乗降を検討しており、各施設の既存の休憩所等の利活用の可能性について、施設管理者と協議します。</p> <p>また、バリアフリーについては、バスへの手すりや補助ステップ等の設置のほか、可能な限り高齢者や障がい者に配慮し、利用しやすい公共交通を目指します。</p>
<p>地域資源の有効活用による公共交通の提案</p>	<p>公共や法人、個人が所有する車や運転希望者を登録し、配車システムを開発して、利用者から最低限の支払いをしてもらうことも考えてはどうか。</p>	<p>ライドシェアの考え方に近いご提案かと思いますが、公共交通には馴染まない仕組みだと考えます。類似の仕組みである「地域共助型生活交通」（地域住民が主体となって、営利とは認められない範囲の運送の対価によって一定区域の住民を対象に運行）の事例を参考に、導入を希望する地域があれば支援を検討します。</p>
<p>意見総数</p>	<p>10 件</p>	